

I -15 市民の防災意識調査とハザードマップワークショップによる防災啓蒙

フジ（前・愛媛大学工学部）学生会員 ○平川 克利
愛媛大学工学部 フェロー会員 森 伸一郎

1. はじめに

自然災害に対する人命災害減には市民の防災救命活動が不可欠であり、そのためには高い防災意識と普段の防災活動が重要である。そこで、市民の防災意識の現状と構造を明らかにし、より高い防災意識を醸成するために、自主防災活動を活性化させることが望まれる。自主防災活動の1つとしてハザードマップを作成するワークショップが有効であると考えられる。本研究では、愛媛県の住民の地震防災意識の現状を知るためのアンケート調査とハザードマップ作成ワークショップ実施による地域住民にもたらされる教育啓蒙効果を検討する。

2. 市民の防災意識調査

2001年芸予地震における被害と揺れ、想定される南海地震に関わる被害予想及び対応に関するアンケート調査を行った。松山市防災リーダー、松前町住民、津島町住民、松山市高浜2丁目住民を対象に4カ所で行われた地震防災講演会や自主防災リーダー研修会の参加者を対象とした。表-1にアンケート調査概要を示す。

表-1 アンケート調査概要

実施地域	実施日	回収率
松山市	2004年3月21日	94% (149人中141人)
松前町	2004年10月5日	86% (100人中86人)
津島町	2004年11月14日	66% (214人中144人)
高浜2丁目	2004年11月～12月	1% (35人から回収)

(1) アンケート調査の結果

図-1に芸予地震の自宅被害の程度と防災対策の予定のの違いの関係を示す。芸予地震の被害がほとんどない津島町を除いて検討した。芸予地震における自宅被害の程度が大きいほど防災対策の予定のある人の割合が高いことがわかった。

想定される南海地震において、自分の家や地域に対する被害予想を深刻なものと考えていることと、防災対策に対する実施予定の有無の関係を調べた結果、図-2から自分の家や地域に対する大きめの被害予想をしているのは海に近い地域であることから津波の心配や高潮災害の被害の経験が多いことが挙げられる。芸予地震の自宅被害の多かった地域は被害予想が大きいほど対策の予定のある人の割合は高い。しかし、海に近い地域は相関が見えなかった。よって、大きめの被害予想をしている方が対策の予定のある人の割合が少ない。

(2) 防災意識調査のまとめ

アンケート調査の結果より、大きめの被害予想をし

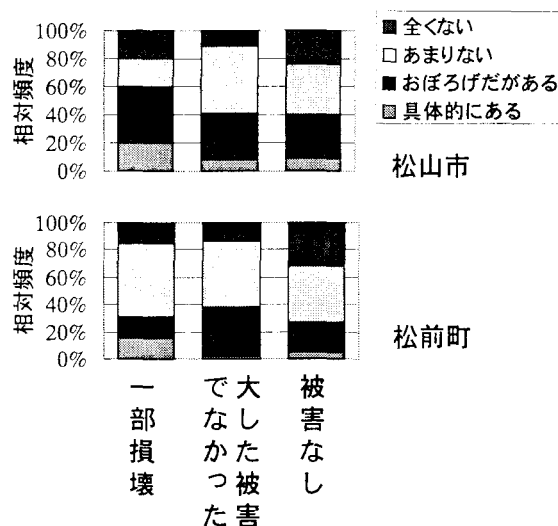


図-1 自宅被害と防災対策の予定

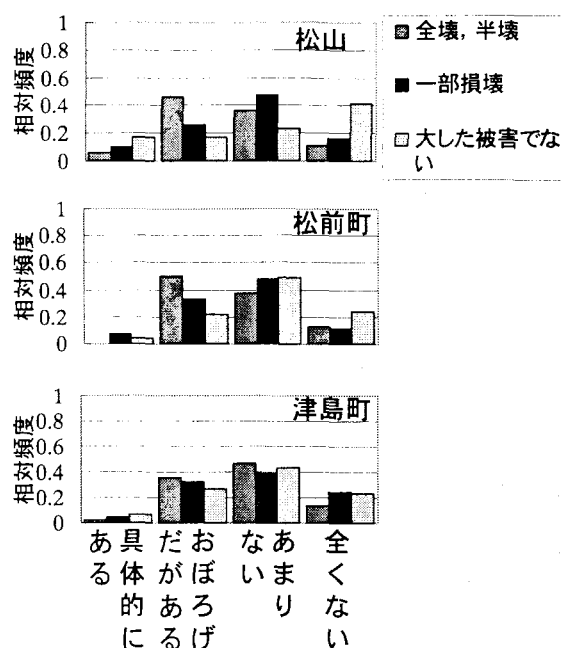


図-2 自宅の被害予想と防災対策の予定

ている人より災害被害を経験した人の方が防災対策を行うと考えられる。

3. ハザードマップ作成ワークショップの効果の評価

ハザードマップとは、防災を目的に、自然災害の危険の原因となる場所を予測し表示した地図である。ワークショップ(=WS)は住民が自らハザードマップを作成し、防災に必要なこと等を話し合う防災活動の1つである。2004年9月4日に高浜2丁目、参加者約55人、12月4日に宇和島市、参加者約30人でWSを実施した。そのWSにおいて、災害経験、知識、意識に関するアンケート調査を実施した。高浜2丁目は不参加者用アンケートも実施した。アンケートの母数は高浜2丁目が44、宇和島が22である。図-3にWSの作業中の様子を示す。



図-3 ハザードマップ作成の様子

アンケート調査の結果によれば、WSの事前事後の比較により、ハザードマップを知っている人が少なかったが、WSを通してハザードマップの役割を理解できる人が多くなったことがわかった。WS参加者と不参加者の比較より、図-4からハザードマップを理解していた不参加者より参加者の方が様々な役割を理解できた。図-5からは、複数のWSのアンケート結果に共通して、WSを通じて、異なる意見の違いを理解できた人の割合が高く、ワークショップはリスクコミュニケーションの場として適切であることがわかった。

4. 結 論

ハザードマップ作成ワークショップの前後に行ったアンケートと不参加者に行ったアンケート調査の結果より、ワークショップの効果として、ハザードマップの役割を理解しハザードの特徴を知る人の割合が増えることや住民間の異なる意見の違いを理解できる人が増えることが挙げられる。すなわち、ハザードマップ作成ワークショップは、防災学習やリスクコミュニケーションの手段として有効であることがわかった。

謝 辞：アンケートに協力頂いた各地域の方々、および各地域の消防の皆様に感謝します。また、ワークショップの実施は、愛媛地震防災技術研究会（会長：森 伸一郎）の会員の皆様によるものです。

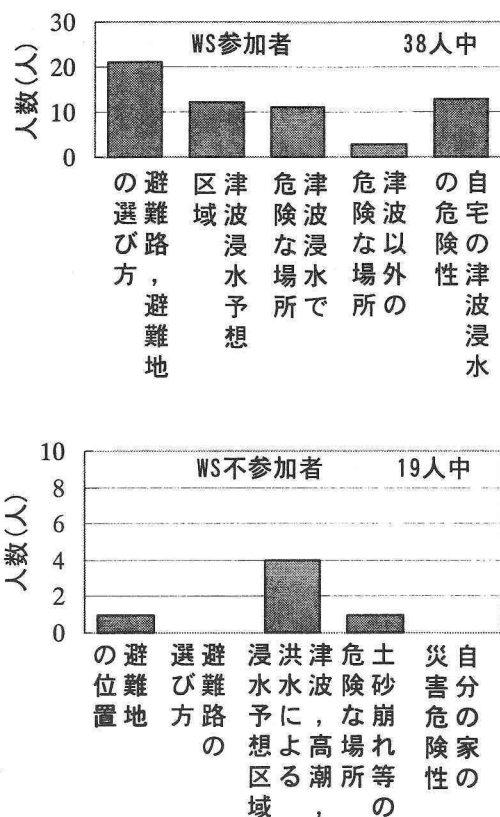


図-4 ハザードマップの役割の理解

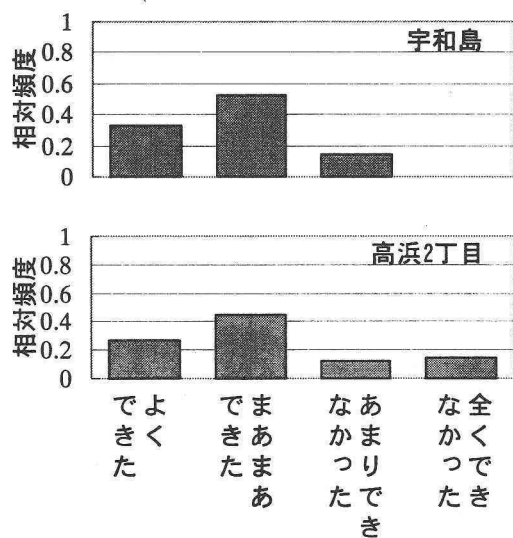


図-5 異なる意見の理解